

特集 2

「自分たちのまちは自分たちで」 17年目の「こにこ日土バス」

NPO法人にこにこ日土理事長 萩森 敏久



私たちが暮らす日土地区は、愛媛県の西側、日本一細長い佐田岬半島の付け根にある八幡浜市に位置しています。八幡浜市は、人口約3万人、面積約130km²の、海と山に囲まれた比較的コンパクトな市で、みかんや魚、ソウルフードの八幡浜ちゃんぽんやマーレードといった美味しい特産品がたくさんあります。日土は、人口約1400人の地区ですが、面積は約26km²と広く、中心を流れる川の両側に山が並び、集落が点在している中山間地域です。かつては3校あった学校は小学校1校のみとなり、高齢化率も50%近くまで上昇しています。



日土地区の様子

にこにこ日土設立の経緯

日土地区では、NPO法人にこにこ日土が運営する「にこにこ日土バス」が運行しており、高齢者をはじめとする車を持たない住民の日常生活や、小・中学生の通学における移動を支えています。平成20年に始

まった活動は、令和6年に17年目を迎えます。平成19年に、当時民間事業者が運行していた地区内の全バス路線が廃止するという話を受けて、運輸局に相談したところ、現在の交通空白地有償運送事業の仕組みを紹介され、前例がほとんどない中で準備委員会を立ち上げました。元々活動していた農家関係者による住民組織が主体となって、行政の支援を受けながら、道路運送法上の手続きや既存交通事業者へのあいさつ回り、地区住民の理解を得るための説明会を重ね、平成19年10月には小学校



子どもたちの通学を支えるスクールバス



有償運送を利用してお出かけ

のスクールバス運行を受託し、平成20年の3月にNPO法人化、同年6月より有償運送を開始しました。

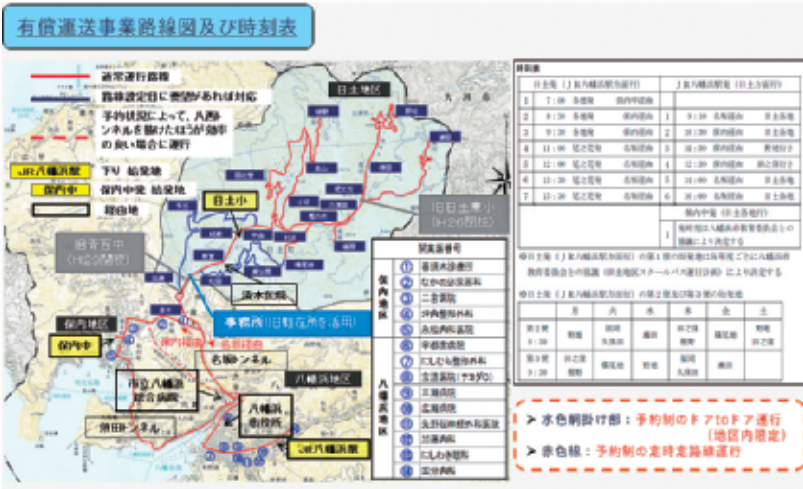
活動内容

にこにこ日土の主な活動内容は、地区住民を対象とした有償運送事業とスクールバス事業の2つです。有償運送事業は、市街地まで移動できる定時定路線バスと、日土地区内にエリアを限定して目的地前まで移動できる地域内デマンドバスの2種類で運用しています。高齢者の通院や買い物を目的とした利用が多く、現在は定時定路線のバス利用がほとんどです。スクールバスは、市から運行業務を受託しており、小・中学生の朝夕の通学手段として運行しています。他にも、車両が空いている時には、ガソリン代等の実費負担の範囲内でお遍路めぐりツアーを企画し、高齢者の外出支援も行っています。

登録車両は、法人が所有しているワゴン車3台と緊急時のボランティア車両4台（運転手の自家用車）、市所有のスクールバス1台です。運転手は、二種免許所持者2名と認定講習受講者5名が登録しており、現在は70代の3名の運転手が日々の運

運行実績

ここにこ日土の利用者数は、初年度の



有償運送事業の路線図と時刻表

行を担っています。NPO法人として組織化したことによって、法人格を得ていますので、ある程度活動の幅を広げることが可能です。法人として赤字を出さないということ念頭に、無理なく自分たちができる範囲でという考え方で活動しています。

約6000人から、令和4年度には約13000人に増加しています。増加した要因は、地道な周知活動により事業が地区住民に広く認知されたことや、小中学校の統廃合により、児童・生徒利用者が増えたことが挙げられます。令和4年度の利用者数内訳は、有償運送事業が約3500人、スクールバス事業が約9500人です。NPO法人の事業収支は、16年間継続して黒字となっており、黒字分は車両購入費用などの積み立てに回しています。収入の内訳は、法人の入会費・年会費、運賃収入、スクールバス委託収入となっています。中でも、スクールバス委託収入が占める割合が7割程度と高く、市のスクールバス運行を受託することで、安定した法人経営が可能となっています。スクールバス収入が大きいのはもちろんですが、法人の会費はバスを利用し



安全運行のために、運転の合間に情報を共有する事務所は、地域の交流の場としても機能



車内でも、楽しくしゃべり

今後の展望

全国的にバスの運転手不足が報道されていますが、ここにこ日土も例外ではありません。黒字運営のためにも、運転手への給料は最低限に抑えており、現役世代を雇うことはできないため、退職後の地域住民が運転手として活動しています。現在の主な運転手が70歳を超えており、次の世代に声掛けをしています。安定した運転手の確保に苦慮しているところです。

NPO法人にここにこ日土は、16年間地道に活動を重ね、無事故・黒字運営で、地域の移動手段を自分たちの手で担ってききました。ここにこ日土という名前のおり、住民の皆さんが笑顔でおでかけできる移動手段を提供することが、私たちの活動目的です。人口減少が進む中で、安全な移動手段を確保し、これからは皆さんがここにこ楽しく日土地区で暮らせるように、行政と連携しながら、より良い活動になるように法人の在り方を常に見直ししていきます。